

町長室から

田上町長
佐野 恒雄

若葉が美しく、一年で一番過ごしやすい五月になりました。町では、五月十一日から、六十五歳以上の方の新型コロナウイルスワクチン接種が始まりました。

ワクチン接種の予約は、コールセンターでの電話予約とインターネットによるWEB予約の2通りの方法としました。コールセンターは、当初3回線用意しましたが、電話が繋がらない事態となり、町民の皆様が大変なご不便をおかけしました。

翌週からコールセンターの回線を増やして4回線とし、役場内にWEB予約の操作方法をお手伝いするサポートセンターを設置しましたので、ご利用下さい。

五月の連休も我慢の毎日でした。ワクチン接種がコロナ禍収束の切り札になることを切に願っています。

町では、今後も「感染予防」「景気や生活の支え」のための対策に取り組んでまいります。あわせてワクチン接種が予定通りに実施できるように努めてまいります。

五月の連休前後に、道の駅の直売所で「たけのこまつり」と称して採りたてのたけのこの販売をしていました。駅長さんの話では、四月二十四日の初日は、朝百本を用意したそうですが、十分で売り切れになったとの事です。その後も入荷するとあっという間に売れてしまい、お手元に届かなかったお客様には大変申し訳なかったとお話しされています。たけのこは、多く採れる年とあまり採れない年が交互に来るそうなので、今年は採れない年で、二十軒以上の出荷者にお願ひしていたのですが、入荷も思ったほど多くなかったようです。

町在住の高橋務さんが、町のたけのこについて研究をされています。以下は高橋さんの研究の一端です。

『江戸時代の終わりの頃に刊行された「越後土産」という本の中の産物見立取組※に、「田上もうそう竹」と「田上切石」が出ている。日本には昔から「マダケ」と「ハチク」という竹の種類があったが食べてもあまりおいしくない。今、食べられているたけのこは「モウソウチク」といって、江戸時代に、中国から琉球、薩摩、江戸を経て越後に入ってきたと思われる。いつ頃誰によつて三國峠を越えたかは分からないが、雪のためか魚沼地区では根を下ろすことができず、長岡から北の地区に広がったようだ』

来年は、たけのこが多く採れる年のようなので、今年以上にたくさんの方に町のたけのこを味わっていただける事を期待します。

※産物見立取組：越後の各地域の産物を著者が相撲の番付表の様にしたもの